**平成26年第２回定例会　◆発言者一覧◆**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 平成26年第2回定例会(第2日目) 2014.06.17 | 発言順：1　野田譲（自由民主党） |
| 2 | | 発言順：2　小野寺健（市民フォーラム仙台） |
| 3 | | 発言順：3　橋本啓一（自由民主党復興仙台） |
| 4 | 平成26年第2回定例会(第3日目) 2014.06.18 | 発言順：1　佐藤和子（公明党仙台市議団） |
| 5 | | 発言順：2　庄司あかり（日本共産党仙台市議団） |
| 6 | | 発言順：3　相沢和紀（社民党仙台市議団） |
| 7 | 平成26年第2回定例会(第4日目) 2014.06.19 | 発言順：1　菊地崇良（自由民主党・仙台） |
| 8 | | 発言順：2　加藤けんいち（市民フォーラム仙台） |
| 9 | | 発言順：3　跡部薫（自由民主党復興仙台） |
| 10 | | 発言順：4　佐々木真由美（公明党仙台市議団） |
| 11 | | 発言順：5　嵯峨サダ子（日本共産党仙台市議団） |
| 12 | | 発言順：6　ひぐちのりこ（社民党仙台市議団） |
| 13 | | 発言順：7　及川英樹（みんなの党・みんなの仙台） |
| 14 | 平成26年第2回定例会(第5日目) 2014.06.20 | 発言順：1　大泉鉄之助（自由民主党） |
| 15 | | 発言順：2　やしろ美香（自由民主党・仙台） |
| 16 | | 発言順：3　岡本あき子（市民フォーラム仙台） |
| 17 | | 発言順：4　鈴木勇治（自由民主党復興仙台） |
| 18 | | 発言順：5　小田島久美子（公明党仙台市議団） |
| 19 | | 発言順：6　ふなやま由美（日本共産党仙台市議団） |
| 20 | | 発言順：7　石川建治（社民党仙台市議団） |
| 21 | 平成26年第2回定例会(第6日目) 2014.06.23 | 発言順：1　早坂あつし（みんなの党・みんなの仙台） |
| 22 | | 発言順：2　斎藤範夫（自由民主党・仙台） |
| 23 | | 発言順：3　木村勝好（市民フォーラム仙台） |
| 24 | | 発言順：4　渡辺博（自由民主党復興仙台） |
| 25 | | 発言順：5　鈴木広康（公明党仙台市議団） |
| 26 | | 発言順：6　小野寺淳一（みんなの党・みんなの仙台） |
| 27 | | 発言順：7　鈴木繁雄（自由民主党・仙台） |

平成26年第2回定例会（第2日目）2014.06.17

発言順：1　野田譲（自由民主党）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：復興の加速につき１年間の取り組みを振り返りどのように総括するか。 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ２：復興計画期間終了後の課題にどのような視点でまちづくりを進めようと考えているのか。今後の市政運営に向けての決意。 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ３：仮設住宅の入居世帯にどのような課題認識のもと対応をとっていかれるのか，その方針。復興公営住宅の入居者にどう支援するのか。 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ４：蒲生北部被災市街地復興土地区画整理事業の事業手法として導入した包括委託方式の概要・事業者決定までのスケジュール・事業全体についての今後の見通し | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ５：丘陵部の被災宅地復旧の現在の進捗状況，事業に影響を与える問題がないのかどうか，今後の見通し | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ６：未復旧宅地のうち二次災害防止の観点から早期の復旧が必要とされる宅地についての検討状況 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ７：入札不調の現在の状況とこの課題に今後どう取り組んでいくのか | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ８：工事の設計変更について具体的にどう対応しているのか。 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ９：子ども・子育て支援新制度について<br>・国を上回る基準を設定することによる保育施設の経営のあしかせとそれに対する市独自の支援策の必要性<br>・本市単独負担で保護者負担の軽減を図るべき<br>・迅速かつ丁寧な事業者への情報提供の必要性<br>・幼稚園の子ども・子育て支援新制度への円滑な移行への努力と職員の不足 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 10：地方税法の改正に伴う法人市民税の税率の改訂についての当局の見解と国に対する対応，それによる本市の収入への影響・長期的な財政運営への支障の有無，このような制度を早急に廃止し，国税から地方税への移設という本来の地方分権の姿に沿った改正を早期に実現するよう国に対し強く求めていく必要性 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 11：坪沼小学校を生出小学校に，荒浜小学校を七郷小学校に統合する条例の改正について<br>・保護者や地域との協議をどのように進めてきたか<br>・坪沼小学校学校施設の活用策<br>・学校規模の適正化の今後のスケジュール | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 12：教員の不祥事の多発という緊急事態を教育委員会としてどのように受けとめているか，前例にとらわれない厳しい処分の必要性 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13：いわゆる客引きの防止について<br>・本市は他都市における取り組みや効果についてどのように捉えているか<br>・客引きの防止についてどのような取り組みをされてきたか<br>・本市独自の条例の制定などこれまで以上の積極的な取り組みの必要性 | 0 | 1 | 1 | 2 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 14：ＩＣ乗車券について<br>・ＩＣ乗車券のスケジュールに影響が生じることはないか<br>・イクスカの全国利用が可能となるよう取り組む決意<br>・早々にポイントサービスを明らかにするべき。その見通し<br>・イクスカの特色・プレミアムの水準<br>・速やかな広報の必要性 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 15：今後の中小企業の活性化<br>・中小企業支援条例の制定に向けた現時点での市長の考え | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1 | 1 | 5 | 7 |

| 【コメント】 |
|---|
| ２⇒「復興計画期間終了後の課題」とは何か質問者側から提示する必要がある。<br>３⇒「仮設住宅の入居世帯の課題」「復興公営住宅の入居者の課題」も質問者側から提示する必要がある。<br>４⇒「包括委託方式の概要」は事前に調べておく必要がある。<br>５⇒「現在の進捗状況」も事前に調べておく必要がある。<br>７⇒入札不調の原因と改善策は質問者側から提示する必要がある。<br>８⇒「具体的にどう対応しているのか」は事前に調べておく必要がある。<br>10⇒「本市の収入への影響」は事前に調べておく必要がある。<br>11⇒「保護者や地域との協議をそのように進めてきたか」は事前に調べておく必要がある。<br>12⇒「前例にとらわれない厳しい処分」とは何か具体的に提示する必要がある。 |

平成26年第2回定例会（第2日目）2014.06.17

発言順：2　小野寺健（市民フォーラム仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：自治体の人口減について<br>・若者の流出防止策を早急に打ち出す必要性（２０歳～３９歳の女性が魅力的に思える定住したいと思える環境づくりまちづくり・２０３０年までに出生率を人口維持が可能な２．０７までに回復させる努力をすること・出生率の目標設定）についての所見<br>・郊外の団地の調査を受けて（郊外住宅地の魅力向上のために）どのような分析を行い施策を展開することになったか。若い世代が住みたいと思える郊外の団地の再生への早急かつ具体的な取り組みの必要性 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| ２：女性の社会進出について<br>・女性の社会進出について現況，何が必要でどのような視点を持って施策を実行していくべきか。<br>・女性の起業家支援のために今年度具体的にどのような取り組みをし強化していくのか。<br>・起業後の支援に知恵を絞る必要性，経済局と担当する伊藤副市長の所見。 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ３：産科医療の充実（産科医師の確保策） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ４：第三回国連防災世界会議について<br>・その準備状況<br>・震災について仙台市が企画できる関連事業で世界に情報発信する必要性<br>・宿泊場所，関連事業の場所について福島市・山形市との連携，ホームステイ・民宿などの対応による市民と参加者との交流 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ５：財政の健全性の維持と市債活用（残高管理の目標をもった市債活用・マネジメントの必要性） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ６：国際観光・ＭＩＣＥ都市の推進について<br>・来年３月の国連防災世界会議や２０２０年のオリンピック・パラリンピックの東京開催の好機をどのように生かすのか<br>・オリンピック東京大会開催に伴うキャンプ地や練習会場の誘致<br>・現在取り組んでいること・今後の見通し<br>・トップの意気込み | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ７：子ども・子育て支援について<br>・３月公表のアンケートの結果から何を学んで生かしていくのか<br>・新制度実施の今後のスケジュールと推進体制<br>・保護者に見える形で動く必要性（早い時期に現況を把握し，なるべく早く対策をうつ。それによる保護者の納得）<br>・基準府省令に定める基準よりも今回提案された条例案の基準がより厳しくなっている点についてその理由<br>・保育従事者の３分の２以上を保育士とすることについての疑問（暫定措置として基準を省令に合わせてもいいのではないか）<br>・小１壁の解消に向けてどのような取り組みをしているのか | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ８：小中学校の統廃合について<br>・国の基準見直し後，仙台市内において標準クラス数に満たない小中学校はどの程度あるか。<br>・基本方針・実施方針の策定から６年が経過し，見直しをする考えがあるか。見直しのスケジュール（教育局だけで進めるのではなく地域づくりという観点から幅広く有識者・地域の方々・市民から声を聞くべき）（見直しのスケジュールは有識者等の声を聞きながら慎重に検討することを前提としたスケジュールか） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ９：小中一貫教育の推進について（小中一貫教育や小学校教育・中学校教育を含む新しい教育のあり方を検討していく考えがあるか） | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10：公共施設の保全・更新について<br>・資産マネジメント推進室を中心に庁内でどのような討論がなされているか<br>・担当社レベルではなく二役による判断が必要<br>・複合化の推進<br>・プロジェクトチームを立ち上げる等取り組みを開始するべきではないか | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 11：震災の記録を残すことについて<br>・来年の国連防災世界会議に向けて震災記録誌の改訂版を作成する意義，多言語で部数を多く作成するべき<br>・震災メモリアルプロジェクトの検討・進捗状況 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 1 | 1 | 7 | 9 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒「２０歳～３９歳の女性が魅力的に思える環境」とは何か。「若い世代が住みたいと思える郊外の団地」とは何か。それをどのようにして作っていくのかという具体的な手順が問われている。その回答をすべて当局に頼るのではなく「こういう方策もあるがどうか」と問う必要がある。<br>２⇒「具体的にどのような取り組みをし強化していくべきか。」を質問者側から投げかける必要がある。仙台市の起業家支援に何が足りないのか継続的な調査・研究が必要。質問が一般論の域を出ていない。<br>３⇒「医師の確保策」として何があるか,成功している自治体があるのか，あるとすればその鍵は何か。調査・研究の成果を提示して質問する必要がある。<br>５⇒「残高管理」とは何か。残高をどのように管理すれば財政の健全性と市債活用を調整できるのか具体的な対策を（当局の考えに頼るのではなく）質問者側で提示する必要がある。<br>７⇒「今後のスケジュール」「より厳しくなっている点」「小１壁の解消に向けての取り組み」は事前に調べることが可能。<br>８⇒「標準クラス数に満たない小中学校の数」は事前に調べるべき。<br>10⇒「庁内でどのような討論がなされているか」は事前に調べてその内容について質問するべき。 |

平成26年第2回定例会（第2日目）2014.06.17

発言順：3　橋本啓一（自由民主党復興仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：子育て支援について<br>・現在の待機児童の状況をどのように認識し，今後どのように対応していくか<br>・認定こども園への移行について十分な説明がなされているか，どのような働きかけをしているか。新制度スタート時における整備施設数の見通し<br>・国の政省令とは異なる基準が設定された理由<br>・朝市センター保育園についての方針決定時期と認可保育所へ移行する可能性 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ２：仙台市市税条例の一部を改正する条例について<br>・国税化のさらなる拡充も予想される中で当局としてどう認識し行動していかれるのか<br>・今回の改正による減収に対する対応 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ３：本市の復興事業について<br>・移転先宅地の造成，復興公営住宅の建設の進捗状況と今後の見通し<br>・プレハブ仮設住宅の集約と供与期間の終了を見据えた取り組みが求められるのではないか<br>・未復旧宅地に対する今後の対応<br>・避難勧告の解除状況 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ４：集中復興期間後の税源確保<br>・集中復興期間後の税源について今後の国の対応の見通し・本市としての今後の対応<br>・道路や公園などの資産の長寿化　対策も含めた効果的な維持・管理に対する当局の考え | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ５：ＩＣカード乗車券イクスカについて（一刻も早い導入・機能の追加と付加） | 0 | 1 | 1 | 2 |
| ６：地下鉄東西線の開業について<br>・市民説明会での市民の参加状況とそこで出た意見<br>・バス路線の再編と今回出た要望への対応，再編のスケジュール<br>・仙台駅周辺のバス乗降場の配置<br>・観光送迎用バス乗降場の東口への移設と宮城県バス協会からの懸念と要望<br>・歩行者系案内誘導サイン等の連動性・連結性・ＪＲ等民間事業者との連携・協力<br>・七夕花火祭りの打ち上げ場所の変更についての主催者との協議<br>・地下鉄東西線開通後の打ち上げ場所の変更の必要性 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ７：統合後の学校跡地施設の有効活用<br>・コミュニティー活性化との関係についてこれまでどのような検討がなされてきたか<br>・少子高齢化や過疎化の問題をどう生かしていくか検証していくべき<br>・公共施設としてよりふさわしいものにするため，どう利用していくのか今後の取り組みと用途決定までのスケジュール<br>・立地バランスを配慮した活動拠点の再配置の検討と計画の必要性 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ８：区役所の使命と役割（今後の区役所の役割についてどう考えその機能強化にどう取り組んでいくのか） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ９：国連防災世界会議について<br>・会議に参加を希望する市民の意見をどのように捉えているか<br>・市民と参加者との交流<br>・参加者に見どころをどう提供し会議を観光振興に結びつけていくのか | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10：東北大学雨宮キャンパスの跡地利用について<br>・検討会における跡地利用の方針の検討内容<br>・スケジュールと見通し<br>・地元住民との話し合いを行うことなどの配慮と今後の対応 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11：仙台空港民営化について<br>・これまでの対応<br>・民営化後の仙台空港の運営に対しどのように意見しかかわっていくのか<br>・今後の航空路線誘致の基本的な考え方 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12：蕃山の乱開発について<br>・樹木の伐採についてのこれまでの経緯<br>・今回の件について県と市の役割分担<br>・原状回復に向けた見通しと今後の措置<br>・今回の件について本市の対応に不備がなかったか<br>・未然に防ぐための対応 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13：新市立病院について<br>・精神科医確保に向けた取り組みと今後の見通し<br>・精神科医を確保できなかった場合の身体合併症精神科救急医療の運営 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 14：宮城県による医学部新設構想について<br>・宮城県による医学部新設構想について県から国への申請の前に村井知事から奥山市長に何らかの相談・説明があったのか<br>・この構想についてのスタンス | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15：火災予防条例について<br>・地域版避難運営マニュアルの策定済みが７３カ所であることについての認識<br>・策定に向けて取り組んでいるところの今後の方針 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 0 | 1 | 1 | 2 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒「現在の待機児童の状況」「新制度スタート時における整備施設数の見通し」「国の政省令とは異なる基準が設定された理由」等は事前に調査する必要がある<br>３⇒「移転先宅地の造成，復興公営住宅の建設の進捗状況」は事前に調べて問題点をつかんでそれを提示して質問する必要がある。一般論を述べ当局の見解を問う質問の意味を再検討する必要がある。<br>７⇒「少子高齢化や過疎化の問題をどう生かしていくか」「公共施設としてよりふさわしいものとは何か」を質問者側から具体的に提示する必要がある。<br>10⇒「検討内容」「スケジュール」は事前に調べるべき<br>11⇒「運営に対しどのように意見しかかわっていくべきか」を質問者側から提示する必要がある。<br>12⇒「森林の伐採の原因と未然に防ぐことができなかった理由」「仙台市の役割・責任」は事前に調べる必要がある |

平成26年第2回定例会（第3日目） 2014.06.18

発言順：1　佐藤和子（公明党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：情報セキュリティー対策の強化について（青葉区家庭健康課の個人情報のデータファイルの紛失と，ハード面から情報が漏れないよう対策を図る必要性） | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ２：人口減少問題について<br>・日本創成会議の人口減少問題検討分科会の提言についての市長の考え<br>・本市にとっての人口減少の分析（いつ頃から人口減少に転ずるか）<br>・人口減少社会におけるまちづくりについての市長の考え | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ３：地下鉄東西線開業に伴うバス路線の再編について<br>・説明会を受けての見通しのポイント<br>・２回目の説明会実施方法 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ４：太白区の坪沼小学校を生出小学校に，若林区の荒浜小学校を七郷小学校の統合する条例について<br>・学校統廃合への住民理解（地域の構図の変更）<br>・生出小学校に統合される坪沼小学校の今後の課題（通学支援，児童クラブ，学校の歴史の継承，施設の利活用）<br>・今後児童の増加が確実に予想される七郷小学校並びに蒲町小学校についての対応<br>・七郷小学校の分離新設についての今後の検討 | 2 | 0 | 2 | 4 |
| ５：仙台市幼保連携型認定こども園の設備及び運営に関する基準を定める条例について<br>・条例の基準策定の考え方<br>・保育基盤の整備の見通し<br>・保育士の確保<br>・学校における児童生徒の安全対策 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| ６：仙台市児童福祉法の施行に関する条例の一部を改正する条例（放課後児童健全育成事業，家庭保育事業等の国の基準を条例で定めたもの）について<br>・児童クラブの拡充（児童クラブの登録数の想定，スペースの確保）<br>・放課後児童支援員の確保（補助員の資格の基準，人材の確保）<br>・保育サービス相談員（早急に体制を整え支援する必要性，増員の必要性）<br>・居宅訪問型保育事業（ベビーシッター）（人材の確保） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ７：水痘の定期接種について（周知を図る必要性，周知への取り組み） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ８：国連防災世界会議の情報発信（情報発信の努力の必要性） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ９：震災の風化防止について（風化を防止するため発信し続ける必要性，市長の所見） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 4 | 0 | 4 | 8 |

| 【コメント】 |
|---|
| ３⇒「見直しのポイントは何か」，「何をどのように見直すべきか」を質問者側で提示する必要がある<br>４⇒調査を踏まえ問題点の指摘と提言を伴った優れた質問 |

平成26年第2回定例会（第3日目） 2014.06.18

発言順：2　庄司あかり（日本共産党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：消費税１０％への増税を黙ってみているはずがないと考えるが市長の見解は | 1 | 0 | 0 | 1 |
| ２：社会保障のための増税という矛盾に気づかないで政府の宣伝文句を無批判に受け入れているのであれば，社会保障のそもそも論から出直すべき。政府のごまかしを正面から批判し，応能負担の原則に立った社会保障の充実を求めるべき | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ３：国民健康保険の算定方式の変更について<br>・市が独自に繰り入れをふやして保険料が上がらない措置をとるべき（算定方式変更によって保険料が高くなった世帯に負担増部分を全額免除すべき）<br>・独自の所得控除を創設し，それに伴う必要な財源は一般会計から繰り入れるべき | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ４：子ども・子育て支援法の制定に伴う基準の設定について<br>・市民が見てわかりやすくするため政省令等の基準の内容を全て規定する抜き書き方式にすべき<br>・中身をよく検討するべき。今急いで出す必要はない<br>・仙台市の待機児童はふえ続けている。子供や保護者にとってよりよい条例にするための検討，努力をもっと丁寧にすべき（追加） | 1 | 1 | 1 | 3 |
| ５：復興計画について<br>・奥尻島の被災者支援の考え方を復興基金の使い方という点で参考にするべきではないか<br>・もっと思い切った支援で住宅再建の後押しをするべき<br>・住宅再建の実費補助の増額を求めると同時に，宅地被害も対象に加えるべき<br>・集団移転先の荒井西団地用地の取得について（土地の価格の上昇のしわ寄せが被災者に行かないようにするべき。ローン期間の延長）<br>・復興公営住宅の家賃について（国に対し特別家賃低減事業の延長を求めるべき。仙台市独自の家賃減免制度を創設するべき）<br>・復興公営住宅でのコミュニティーの構築（復興公営住宅の集会所における支援員の常駐）<br>・復興公営住宅の戸数を増やす決断をするべき | 1 | 1 | 2 | 4 |
| ６：地下鉄東西線に合わせたバス路線再編案について<br>・地下鉄東西線ありきの路線の廃止・減便はやめるべき<br>・ＩＣ乗車券の導入について（現金割引を行うべき） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ７：米の直接支払交付金の削減・廃止について<br>・米の需給と価格の安定に政府が責任を持ち，生産調整の実施に当たっては転作条件を思い切って有利にし，農家が自主的に選択できる条件を整えることが必要<br>・米の生産費に見合うだけの価格・所得保障の確立を国に求めるべき | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ８：今こそＴＰＰ交渉からの即時撤退を国に強く迫るべき | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ９：地域循環型の経済モデルをつくることについて（住宅や商店のリフォーム助成を行うべき） | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 10：坪沼小学校を生出小学校に，荒浜小学校を七郷小学校に統合することについて<br>・坪沼小学校を廃校ではなく休校にできないか<br>・在校生が荒浜小学校を卒業するまで学校を残してほしいとの訴えをどのように受け止めているか | 0 | 0 | 1 | 1 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11：惨事便乗型の復興まちづくりと都市整備局長の発言（郊外の市民の切り捨て。被災者や市民が登場しない）津波被災地の災害危険区域指定と機能集約型都市の実現の問題性（機能集約型，郊外切り捨て，地下鉄中心のまちづくりが市民や被災者との溝を深めている。） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12：災害危険区域指定の裏づけとして出された津波シミュレーションについて（条件次第で結果がどうにでも変わり得る津波シミュレーションだけで一方的に線引きしたことの誤りを認め，住民の意向に沿って対応をすべき | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13：蒲生北部の区画整理事業について（被災者に減歩，清算金を強いるべきではない） | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 14：住民の要望に耳をかさず諦めるのを待つのが市の復興の進め方か（被災者の思いを踏みにじるやり方は断じて許せない） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15：東谷地の干潟と南蒲生の松林の自然環境の保護について（豊かな自然環境を守るために国・県・市の連携の必要性。仙台市がリーダーシップをとるべき） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 16：函館市を見習い市民の生命と安全を守る首長として女川原発の再稼働差し止めを求めるべき。東北電力の大株主としてそれを主張するべき | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17：憲法の解釈を勝手に変えようとする安倍内閣の暴挙についての市長の見解 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | **5** | **3** | **10** | **18** |

| 【コメント】 |
|---|
| １，２，８，14，17⇒質問というよりも質問者（会派）の主張の開陳ではないか。このような質問の意義について再検討する必要がある<br>11⇒重要な論点であるが，議論が一面的。機能集約型のまちづくりの問題点をもっと総合的に分析し，プラスよりもマイナスが多いことを実証する必要がある。継続的な調査・研究が必要 |

平成26年第2回定例会（第3日目）2014.06.18

発言順：3　相沢和紀（社民党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：この３年間の復興交付金に係る申請と決定に対する市長の所感 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ２：復興財源について十分な予算措置が行われているとの認識に立っているのか，不十分との認識の場合どのような対応をとるのか | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ３：個人所得は伸びず，可処分所得が減少している中で，法人税そのものの税率を引き下げようとする安倍政権，自民党税調に対する市長の所見 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ４：復興財源の収入フレームの中に組み込まれている個人住民税（仙台市の場合１０年間で総額２５億円）の使途の特定と市民への説明 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ５：海岸防潮堤について<br>・残された工期の整備はどうなるのか<br>・計画が変更になった場合前提となった津波シミュレーションをやり直すのか<br>・災害危険区域から浸水区域へ変更した場合の関係地区の被災者への対応 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ６：災害集団移転地の宅地申し込みが減った場合の補助金の返納と虫食い状態で残る宅地の処分について | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ７：津波浸水予測区域からの移転新築を考えている方への支援について<br>・制度を知らないで悩んでいる方への支援策（開発事例の紹介や市の支援策をまとめたチラシの作成等）<br>・今後の支援策（より身近な課題，より小規模であっても住宅再建，生活再建につながる支援策） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ８：生垣づくり助成制度の拡充について。エリアの設定を全市域とすべき。新たに農用地等を転用する部分についても枠を拡大をして差し支えないのではないか（追加） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ９：高校入試制度について（２段階選抜試験）の問題点（不合格という審判，結果の持つ重み）<br>・２段階選抜試験について仙台市教育委員会はどのような問題認識のもとに対応してきたか<br>・今回の見直しについての県教委との協議，協議に臨んだ時の考え<br>・２段階選抜試験の中止を検討すべき<br>・不合格だった方々の心をどう思っているのか（追加） | 2 | 1 | 2 | 5 |
| 10：青葉区角五郎に復興公営住宅を整備するために既存の建物を取得する件について（割高な整備ではないか。費用面の精査についてどのような検討が加えられたか） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11：ＩＣ乗車券の導入について<br>・総合評価方式を採用した理由（競争性が重視されずコストが軽減できないのではないか）<br>・車輌に設置する乗車リーダー及び降車リーダーの設置費用はどうなるのか<br>・メンテナンス費用の想定<br>・どの時期にＩＣ乗車券一本に切り替えるのか<br>・普通乗車券についても早期にＩＣ化すべき | 0 | 1 | 1 | 2 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12：地下鉄東西線の開業に伴うバス路線の見直しについて（若林区役所との結節について十分な検討を行い修正を求める） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 13：復興の先を見据えたまちづくりについて（若林区六郷地区と太白区四郎丸地区を結ぶ橋梁の新設と，それに接する道路の整備を求める） | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | **7** | **2** | **9** | **18** |

| 【コメント】 |
|---|
| １，２，３⇒質問のねらい（当局からどのような答弁を引き出すつもりか，引き出した答弁にどんな価値があるのか）が不明<br>９⇒調査結果と他都市の例を踏まえた質問<br>10⇒「費用面の精査について」は事前に情報公開請求で資料を入手し質問者自ら分析して質問する必要がある<br>11⇒「総合評価方式を採用した理由」「乗車リーダー及び降車リーダーの設置費用」は事前に調査する必要がある |

平成26年第2回定例会（第4日目） 2014.06.19

発言順：1　菊地崇良（自由民主党・仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：復興公営住宅の現時点の入居者数，入居率についての評価 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ２：移転先の地価上昇による再建計画への影響と資材単価，労務単価の上昇による事業者の品質維持，工程管理の困難についての見解と対応 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ３：仙台市東部の安全措置に係る関連事業の今後の予定と目下の課題 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ４：仙台市東部の農業の復旧・復興について<br>・当局の現状認識<br>・今後の早急なる対応と継続的な観察 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ５：地下鉄東西線開通に伴うバス路線の再編について<br>・今次の市民意見を踏まえ，全市的バランスの観点から，現状認識と見解，主要な修正の方向<br>・市民の意見を反映した時間帯に応じた柔軟な路線編成の必要性<br>・高齢者や障害を持った交通弱者への対応<br>・荒井駅，荒井南・西の各地区，霞の目周辺地区との連接<br><br>【追加】<br>・区役所など地区公署へのアクセスへの配慮<br>・旧来からの地域商店街の維持の必要性についての見解<br>・都市整備局，まちづくり政策局，都市経営の政策を担う局間の関係 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ６：国連防災世界会議について<br>・関係各局との調整<br>・観光交流人口拡大の一助とすべき。私たちの真摯な姿を世界の人々に理解してもらう必要性 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1 | 0 | 1 | 2 |

| 【コメント】 |
|---|
| ２，３，４⇒どのような問題点があるかを当局に尋ねるのではなく，事前に調べて，問題点に対する当局の対応の不備，不足を具体的に指摘し，その改善案を提示して質問する必要がある。どのような問題点があるかを当局に尋ねる質問は，質問の前提の確認に過ぎず，本来の質問ではない。 |

平成26年第2回定例会（第4日目） 2014.06.19

発言順：2　加藤けんいち（市民フォーラム仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：国連防災世界会議の警備と保安体制について<br><br>・当日の警備体制と保安体制<br>・実行委員会のような組織を立ち上げて対応するのか<br>・事前の保安体制の強化 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ２：ジャイアントパンダの導入について<br><br>・現在，プロジェクト会議は開催されているのか<br>・パンダの導入と八木山動物公園の整備計画の変更<br>・パンダの導入と中国の外交カードとして利用される可能性<br>・ジャイアントパンダの導入はせめて保留にするべき | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ３：仙台市浄化槽指導要綱実施細目について<br><br>・細目を定めた目的<br>・提出書類としての誓約書の内容の問題点（使用する人員に制約を課しているかのような誤解を与えないようにするべき） | 1 | 1 | 1 | 3 |
| ４：津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金について<br><br>・中小企業支援の観点から，どのような対応を図ってきたか<br>・市内の中小企業に効果的に知らせるべき | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ５：教育について<br><br>・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（教育委員長と教育長の一本化，首長と教育委員会により構成される総合教育会議を設置）についての市長の所見<br>・学校の施設利用<br>（ある側面からの考え方に基づく行事の開催を認めることは，学校施設の利用に課題が残るのではないか，案内チラシの配布）<br>・子供たちの体力，運動能力の向上に向けた取り組みについて<br>（運動場面積の設置基準を下回っている学校と健康実態調査の関係）<br>（中学校の武道必修化後の状況の分析）<br>（運動器検診の導入）<br>・教科書の採択について<br>（宮城県教育委員会から新たに通知される採択基準を尊重して採択するのか）<br>（適切な採択のあり方についての当局の所見）<br>（自信と誇りを持つための教育こそ今の時代に必要。その点について市長の所見） | 1 | 1 | 1 | 3 |
| | 3 | 2 | 4 | 9 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒「実行委員会のような組織を立ち上げて対応するのかどうか」は事前に調べる必要がある。<br><br>２⇒「現在，プロジェクト会議は開催されているのかどうか」は事前に調べる必要がある。<br><br>５⇒学校施設の利用と，学校施設以外の公的施設の利用に区別を設けるべきか，設けるとすればその理由は何か，学校施設についてある側面からの考え方に基づく行事の開催を認めないとした場合，誰がどのような基準でそれを決めるのか，質問者の挙げる逆の場合（憲法９条を変えろ，特定秘密保護法を制定しろ）も利用できないのか，そもそも，ある側面からの考え方が全く反映されていない集会というものがあるのか等，憲法に定める思想・良心の自由，結社・集会の自由との関係で検討すべきハードルがいくつもあるはず。ハードルを検討して質問しているのかどうか不明。 |

平成26年第2回定例会（第4日目） 2014.06.19

発言順：3　跡部薫（自由民主党復興仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：子ども・子育て支援新制度について<br><br>・幼児教育の重要性の認識と幼保小連携と長期的ビジョンの重要性<br>・保育サービス相談員制度（仙台版保育コンシェルジュ制度）と相談現場での効果。制度導入への評価，人材の養成への期待。<br>・施設型給付の今後<br>（国の示す水準に基づく施設給付型の給付を支給すべき。国の示した金額と本市が設定する予定の金額とを明示して，広く理解を得られるように説明すべき）<br>・一時預かり事業について<br>（現在実施している私立幼稚園に確実に委託すべき）<br>・新制度への移行に関連して<br>（私立幼稚園との信頼関係の構築，きめ細かなサポート，意思疎通を図る体制づくり，新制度への移行について，いつまで回答を取りまとめるのか，保護者に対する周知や説明の予定）<br>・就園奨励費事業について（就園奨励費事業を継続するべき） | 1 | 1 | 2 | 4 |
| ２：本市の災害時の情報体制の整備について<br><br>・平常時に市政情報用に活用しているソーシャルメディアを，災害発生時には災害情報の伝達媒体として活用すべき<br>・自動車等交通機関への災害情報提供手段について（電光掲示板の活用，自動車ナビゲーションシステムの活用）<br>・国連防災世界会議の開催を契機として，新たな災害情報発信の取り組みを国に対し求めていくべき | 2 | 1 | 2 | 5 |
| ３：消防団の情報体制の充実強化<br><br>・双方向型の情報機器の導入の必要性<br>・消防団装備の充実強化方針を示した国の方針を受けて，消防団通信機器の配備についてどのような検討がなされているか<br>・国の制度改正を受けた本市の消防団活動服と保護手袋等の配備方針について | 2 | 0 | 2 | 4 |
| | 5 | 2 | 6 | 13 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒問題点を整理した質問。但し，質問が一般論の域を出ていない。現場の問題点が質問に反映されていない。保育サービス相談員制度の相談現場での効果は，事前に現場に行って調査し，それを突きつけて質問するべき。あるべき姿を述べて当局の見解を引き出すだけの質問の実効性を検討する必要がある。<br><br>２．３⇒調査を踏まえ，具体的な改善案を伴った優れた質問。 |

平成26年第2回定例会（第4日目） 2014.06.19

発言順：4　佐々木真由美（公明党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：市営住宅等の住環境整備について<br><br>・市営住宅整備の基本方針について<br>（相談体制なども含め，適正な人員配置がなされているのか。公社に対し十分な対応を求めるべき。基本方針策定の進捗状況）<br>・市営住宅の定期募集のあり方について<br>（県の募集月と異なる月に募集してはどうか）<br>・鶴ケ谷第一市営住宅団地再整備事業について<br>（計画の進捗状況，入居募集の具体の時期，若い世代とお年寄りとのコミュニティーが図りやすい工夫と入居優遇策）<br>・復興公営住宅の駐車場の適正数について<br>（整備戸数に対し，駐車場の整備台数が少ない箇所が幾つもある。入居者の理解を得られるよう，丁寧な説明の必要性） | 1 | 0 | 2 | 3 |
| ２：学校施設における暑さ対策について<br>（台数を極力制限しながらでもエアコンの導入を検討すべき時期に来ているのではないか。エアコンに頼らない暑さ対策の導入状況） | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ３：ＤＶ被害者支援体制について<br>（配偶者暴力相談支援センターの相談等の状況は適正か。万が一のときの安全地帯として市民の期待に応えるセンターにすべき） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ４：水道料金等の減免申請の手続の問題点<br>（提出窓口が限定されている，直接窓口に持っていかなければならない等の現状をこのまま続けてよいのか） | 1 | 0 | 2 | 3 |
| | 2 | 0 | 5 | 7 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒現在の公社の対応のどこに問題点があるか調査し，問題点を指摘しつつ質問する必要がある。「計画の進捗状況，入居募集の具体の時期」は事前に担当者に確認する必要がある。<br><br>２⇒「エアコンに頼らない暑さ対策の導入状況」は事前に調べる必要がある。他の都市のエアコンの導入状況も調査が必要。<br><br>３⇒「相談等の状況は適正か」という質問の趣旨が不明。市民の期待に応えるセンターとして機能しているかどうか，実態をまず調べる必要がある。調査なくして質問なし。 |

平成26年第2回定例会（第4日目） 2014.06.19

発言順：5　嵯峨サダ子（日本共産党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：地下鉄東西線のバス路線再編案<br><br>・バス路線再編案はバスの利用実態を無視したものであり，市民には合わないものではないか<br>・要望があればいつでも出向く旨のお知らせを町内会等に出し，さらに意見を聞くべき<br>・移動時間短縮についての疑問（接続時間，乗り降りする時間，構内の移動時間，高齢者，障害者）<br>・バス路線やバス停が廃止になる地域がたくさん出てくる<br>・大学病院に行けなくなる<br>・自分たちに都合のいい情報だけを提供するやり方は改めるべき<br>・市の都合だけを優先した路線設定ではなく，長町にも行く路線に変更し，運行本数もふやすべき<br>・通学が不便になる学校がたくさんある<br>・学都仙台フリーパスの負担増<br>・バス運賃と地下鉄運賃の合計額が高くなる<br>・イクスカのポイントについての疑問（現金割引を行うべき）<br>・市立病院や区役所などの公的施設に容易に行けるようにするべき<br>・宮城交通との関係。大年寺，鹿野橋経由のバスの便数は現状のまま維持すべき<br>・せんだい都市交通プランの課題認識と基本方針の不合致<br>・高齢化が進めばバスの役割はさらに重要となる<br>・バス事業にもお金をかけて，市民の移動を保障すべき<br><br>【追加】<br>・減便は一旦白紙に戻すべき | 2 | 0 | 3 | 5 |
| ２：公共交通の安全確保について<br><br>・正職員としてバス運転手を採用するべき<br>・委託先の乗務員の賃金が低すぎる。<br>（市が出している人件費相当額と実際に支払われている賃金の差があり過ぎる。委託先の労働者の労務管理の必要性。委託拡大はやめ，直営に戻すべき。）<br>・運転手の長時間労働の常態化<br>・厚生労働省が作成したバス運転者の労働時間等の改善基準の改正を国に対し求めるべき<br>・地下鉄駅業務の民間委託はやめるべき | 1 | 0 | 2 | 3 |
| | 3 | 0 | 5 | 8 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒バス路線再編の問題点を整理し，現場調査を踏まえた優れた質問。 |

平成26年第2回定例会（第4日目） 2014.06.19

発言順：6　ひぐちのりこ（社民党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：人と緑が共存できるまちづくり<br><br>・マンション開発と緑の保全，創出との整合性，土地利用と緑の保全の考え方<br>・地域づくりも鑑みたバランスのとれた住みやすいまちづくりを推し進めるべき<br>・定禅寺通地区の壁面の後退を他の地域にも広げるべき | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ２：夜間保育について<br><br>・夜間保育の現況からすると児童福祉法施行令が生かされていないのではないか。<br>・本年３月に発表された本市の子ども・子育てに関するアンケート調査の数字についての感想と対応<br>・本市における夜間保育を必要としている子供の数や実態。ベビーホテル，ベビーシッターの実況の把握や指導<br>・自治体の支援の必要性。国にも継続的な支援を求めるべき。劣悪な保育環境についての公的介入による改善の必要性。 | 1 | 1 | 2 | 4 |
| ３：朝市センター保育園を認可保育所に移行できるようにするべき | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ４：本市の子供を育み，ともに支え合う環境づくりという施政方針について<br><br>・本市の所在不明児の実態<br>・いわゆる戸籍のない子供についての所見<br>・本市において，母子健康手帳を発行し，出生の事実があっても，戸籍がつくられていないなどの無戸籍児がいるかどうか，実態を把握しているか，戸籍窓口での説明，戸籍がない場合の本市の対応<br>・戸籍窓口の職員研修，他組織との連携，情報提供や支援の必要性<br>・離婚後３００日規定の撤廃を国に求めるべき | 1 | 0 | 2 | 3 |
| ５：学校給食費への公会計制度の導入についてのその後の進捗状況<br><br>【追加】<br>・現行の集金方法<br>・単独調理校で，会計上の不正や盗難があった場合の公的補償，責任の所在<br>・単独調理校における学校給食費の欠損分の対処方法<br>・福岡市での公会計化のメリットについての見解<br>・給食費未納が多く出た被災した学校の例と，安定した給食を出すこととの関係。公会計によるリスク回避のメリット | 0 | 1 | 2 | 3 |
| | 3 | 2 | 8 | 13 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒「マンション開発と緑の保全，創出」「地域づくりも鑑みたバランスのとれた住みやすいまちづくり」とは何か。そのために今何をするのが最も効果的かを，質問者側で提示して質問する必要がある。<br><br>２⇒重要なテーマ。「本市における夜間保育を必要としている子供の数や実態」は質問者が現場に行き，預けている側と預かっている側の双方から実情を聞き，問題点を示して質問すればさらに良い質問となる。<br><br>４⇒これも重要なテーマだが，本市における戸籍のない子供の実態と現在の対応は事前に調査して質問する必要がある。 |

平成26年第2回定例会（第4日目） 2014.06.19

発言順：7　及川英樹（みんなの党・みんなの仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：医療連携，包括ケアについて<br><br>・みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の普及と，協議会や県，医師会との連携，市民への普及啓発の必要性。認識と取り組み状況。<br>・新市立病院の医療連携先の登録医のネットワーク参加。<br>・ネットワークの環境を整えて，地域ケア会議などへの参加<br>・地域ケア構築に向けた情報共有とＩＣＴの活用<br>・嘱託のケアマネジャーなどがケアプラン点検に取り組んでいるか，機能しているか<br>・地域ケア会議に包括支援センターと区役所を加え，地域ケアを構築するモデルケースと地域ケア構築の拡大の必要性<br>・地域に根差し取り組んでいる在宅ケア連絡会を参考にすべき<br>・本市でも，医療連携の強化に向け，関係機関に働きかけ，形にしていくことが求められている。<br>・効果的かつ戦略的に特化した施策に取り組む必要性<br>・包括的な世代間連携を進めることで地域連携が芽生えるのではないか | 2 | 2 | 3 | 7 |
| | 2 | 2 | 3 | 7 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒医療連携，包括ケアについて，調査を踏まえ，問題点を整理し，改善の方向を提示した優れた質問。但し，本市の取り組み状況は事前に調べる必要がある。 |

平成26年第2回定例会（第5日目） 2014.06.20

発言順：1　大泉鉄之助（自由民主党）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：五色沼のフィギュアスケート発祥の地の記念碑に並べて，荒川・羽生両選手の記念碑を整備してはどうか。冬季間五色沼を人工凍結させ，スケートリンクに活用することを考えてみてはどうか。東北大学農学部跡地にスポーツ施設，荒川・羽生記念スケートスタジアムの誘致 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ２：荒浜小学校を震災復興メモリアルとして残すことと，荒浜地区全体の活用との関係。全体の活用方針のなかにメモリアルが位置付けられるべき。荒浜小学校の一部を改修した多目的な市民の利活用 | 1 | 0 | 2 | 3 |
| ３：市職員，教職員の不祥事の頻発と今後の対応 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 2 | 0 | 3 | 5 |

| 【コメント】 |
|---|
| ２⇒重要なテーマ。荒浜地区全体の活用について市が何を検討してるか情報公開請求で調べて，市の検討内容をテーマに質問するべき |

平成26年第2回定例会（第5日目） 2014.06.20

発言順：2　やしろ美香（自由民主党・仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：まちづくり政策局について<br>・政策企画部と情報政策部に分割した理由<br>・まちづくり政策局と財政局の連携<br>・行財政改革という意味でも重要 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ２：マイナンバー制度について<br>・市民の意向調査への活用<br>・経費の削減の効果<br>・制度導入に向けた準備状況（追加）<br>・個人情報の慎重な取り扱い，条例などの関係規定の整備のスケジュール（追加）<br>・情報システム基盤の整備や対象業務の情報システム改修の検討状況（追加）<br>・本市における制度活用の考え方 | 1 | 0 | 2 | 3 |
| ３：教育について<br>・情報リテラシーや情報モラルについて，教育現場にどのような支援をしているか<br>・情報リテラシーと消費者生活センターとの連携強化<br>・子どもたちのツイッターやＬＩＮＥの利用率<br>・ＳＮＳ，ソーシャルネットワークによるいじめにどのように対応しているか<br>・リベンジポルノ等の悪質な例について | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ４：ｅラーニング<br>・ネットを利用しての研修を行わないのか，今後の研修システムの考え<br>・仙台の大学ネットワークの協力による新たな高等教育のためのシステムの構築<br>・仙台市立ネット大学の可能性 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ５：児童虐待について<br>・現時点で児童虐待の医療ネットワーク事業としてどのような事業を行っているのか<br>・他都市に先駆けて取り組みを始めた意義（追加）<br>・要保護児童対策地域協議会とネットワーク事業との違い（追加）<br>・被虐待児童対応チームのメンバー（追加）<br>・専門コーディネーターの専門性（追加）<br>・警察との連携（追加）<br>・再発防止に向けての親御さん等への支援（追加） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ６：ネットワークの多重化・多層化について<br>・防災訓練用エリアメールは災害時にどの程度の信頼性が確保されているのか<br>・ネットワークの多重化・多層化準備の必要性 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ７：国連防災世界会議に向けた取り組みについて<br>・国連防災世界会議に参加した土地勘のない人々でも安全な場所に誘導できる多言語の仙台市防災アプリの開発に取り組まれたらどうか | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 2 | 0 | 5 | 7 |

| 【コメント】 |
|---|
| ４⇒教育センターに招集しての研修と，ネットを利用しての研修のプラスマイナスを総合的に検討する必要がある<br>５⇒現時点での医療ネットワーク事業の活動内容とその問題点は事前に調べておく必要がある。追加質問の大部分も事前に調査が可能<br>６⇒ネットワークの多重化・多層化のために市として何をするべきか，他都市の事例や学者の意見を参考にして質問者側で提示すべき |

平成26年第2回定例会（第5日目） 2014.06.20

発言順：3　岡本あき子（市民フォーラム仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：女性の登用について<br>・審議会の委員の重複を認めず，団体に依頼する場合も代表にこだわらず女性が登用される機会を増やすべき<br>・重複は４つまでという原則を３つ２つと縮小し，幅広い人材を確保すべき（追加） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ２：子育て支援策について<br>・保育所の受け皿整備<br>（二万人イコール待機児童解消か。待機児童ゼロを目指す決意の重要性，保育士の待遇改善，保育サービス相談員のコンシェルジュ機能の強化による受け皿の拡大）<br>・所在不明児童について<br>（１８歳未満の子供の居住実態を把握しているのか，所在確認の確実な実施）<br>・学童保育について（６年生までの受け入れ可能か，児童クラブのあり方の見直しが必要）<br>・児童クラブの登録を安易に活用するよりも子供の過ごし方の選択肢を広げることを前提にすべき（追加）<br>・冒険広場の再開への努力と市内で暫定開設している広場の復興後の定着拡大（追加）<br>・ ワーク・ライフ・バランスに配慮した女性の進出と子育て支援策（追加） | 1 | 1 | 2 | 4 |
| ３：マイナンバー制度と行財政改革について<br>・行財政改革の観点からマイナンバー制度をどのように活用するのか<br>・各種証明書のコンビニ交付の早期の実現（追加）<br>・災害時の率先モデルを仙台市から構築するべき（追加）<br>・広域利用による費用対効果の向上（追加） | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ４：バスの有責事故について<br>・研修の内容が個々の乗務員に本当に合っているのか<br>・事故の削減目標の設定自体現実的ではないのではないか<br>・交通局全体として安全対策に取り組むべき<br>・市職員，教職員の交通事故と事故予防（追加） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ５：地下鉄の民間委託と安全の担保について<br>・経費の削減だけではなく，安全の担保と質の向上も一緒に考えるべき | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ６：防災について<br>・死亡件数の増加，日常防災の呼びかけや高齢者住宅の多い地区への警戒の強化<br>・災害時の権限移譲について（追加） | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 2 | 1 | 5 | 8 |

| 【コメント】 |
|---|
| ３⇒行財政改革にマイナンバー制度をどのように活用できるのか専門家のアドバイスや他都市の事例を調査し，それと仙台市の方針を比較し（追加質問で若干は出ているが），具体的に質問するべき<br>４⇒有責事故の原因を調査し，それが何によるものかを分析し，それを突きつけて質問する必要がある |

平成26年第2回定例会（第5日目） 2014.06.20

発言順：4　鈴木勇治（自由民主党復興仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：市民の健康づくりの取り組みについて<br>・今年で４年目を迎える第二期いきいき市民健康プランの評価<br>・がん検診の取り組みの強化<br>・２０代，３０代の食生活への課題への取り組み<br>・玄米食の普及の提言 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ２：ツキノワグマ対策について<br>・市は熊の住宅地への出没の原因をどのように考えているのか<br>・安心・安全な生活環境確保のため実効性の高い対策<br>・熊など野生生物の共存した森林整備のあり方<br>・適切な対策を国に要望すべき | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ３：地域づくりと学校の統廃合について<br>・高齢化が進む中山間地の地域づくり，まちづくりを過疎化対策の視点から具体的にどう対処するのか<br>・高齢化が進む中山間地域と周辺地区の小規模校の魅力づくりと学力の向上策<br>・坪沼小学校の統廃合と地域づくりについて<br>（丁寧な話し合いが行われ，しっかりと合意形成が行われたか。統合に向けた話し合いの経緯の説明と事実との食い違い。地域活性化の阻害にならないようにすべき。庁内の他部門との連携の必要性。今後の地域づくりを支援する庁内体制の構築） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ４：通学路などの安全対策について<br>・対策必要箇所（４０５）について，警察，学校，道路管理者がどのような対応をとったのか，対策は済んだのか，対策が済んだものはどの程度になっているのか<br>・路側帯のカラー化の試験施行の内容<br>・関係者と恒常的な点検・対策実施の枠組みを作り，効果の見える予算立てを行い，腰を据えて取り組むべき | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 3 | 0 | 3 | 6 |

| 【コメント】 |
|---|
| ３⇒「高齢化が進む中山間地」のために何が今必要か，次の一手を質問者側で提示する必要がある<br>４⇒これも通学路の安全対策の次の一手として何をすべきか質問者側で提示する必要がある |

平成26年第2回定例会（第5日目） 2014.06.20

発言順：5　小田島久美子（公明党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：仙台市バリアフリー基本構想について<br>・策定から８年を経て見えてきた仙台市バリアフリー基本構想の課題，国のバリアフリー新法の趣旨を踏まえて，これから何が求められるか<br>・駅構内の周辺地図案内板の下に掲示された表示の効果を検証したか<br>・内部障害者のハート・プラスマークの普及啓発は現在どこまでどのように行われてきたか<br>・バリアフリーに配慮した通学路整備<br>（これまでの整備をどのような計画で行ってきたか，今後の合同通学路点検の予定と整備対策の方向性，実施地域の児童と高校生の自転車通学の安全対策，歩道整備） | 2 | 0 | 3 | 5 |
| ２：胃がん予防について<br>・胃がんの原因とされるピロリ菌感染についての見解<br>・ピロリ菌の除菌の効果についての見解<br>・胃がん治療に対する感染診断の必要性と除菌治療の効果についての見解<br>・胃がんの早期発見とピロリ菌抗体検査の導入の必要性<br>・胃がん検診のオプションとしてピロリ菌抗体検査を推奨してはどうか<br>・検診受診率を上げていくのは各自治体の責務ではないか（追加） | 2 | 1 | 3 | 6 |
| ３：女性の活躍応援について<br>・市長のリーダシップにより思い切って施策展開するべき<br>・どういう施策の可能性で活躍の推進ができると考えているか（追加） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| | 5 | 1 | 7 | 13 |

| 【コメント】 |
|---|
| １・２⇒調査を踏まえ具体的改善案を伴った優れた質問 |

平成26年第2回定例会（第5日目） 2014.06.20

発言順：6　ふなやま由美（日本共産党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：子ども・子育て支援新制度について<br>・子ども権利条約に明記されている子どもの最善の利益を保証する立場で基準や事業計画をつくり実施すべき<br>・市民が切実に願っている待機児童ゼロは市長の言う４０００人分の基盤整備で実現できるのか<br>・朝市センター保育園を含め，せんだい保育室が新制度の事業に移行できるよう支援すべき<br>・保育相談員を増員し，正規職員にし，子供の権利擁護の専門職や保育ソーシャルワーカーのように位置づけるべき<br>・幼稚園が担う役割を高めるべき，無理やり新制度の枠に当てはめるべきではない，市は仙台市の幼稚園を今後どのように発展させるつもりか，公定価格で必要額を充分に保障すべき，保育料は応能負担の原則で引き上がらないようにすべき<br>・保育士の処遇改善について<br>（公定価格の枠にはめ込むのではなく，国が全額負担して別枠で保育士の処遇改善のための支援を行うことを強く求めるべき，市独自で保育士の処遇改善の補助制度を創設するべき）<br>・営利企業の保育への参入の問題点を把握しているか<br>・４０００人整備の計画で本当に待機児童が解決するのか（追加）<br>・待機児童の定義がどんどん曖昧になっている。新制度移行後も認可保育所を希望しても入れない場合は待機児童と考えるべき（追加）<br>・選択肢を決めるのはあくまでも保護者自身，あくまでも保護者の意向に沿った対応が行われるべき（追加）<br>・３才を迎えた時に行き場を失わないようにするべき，安定した保育提供を支える基盤整備が欠かせない（追加）<br>・公立の認可保育所の廃止は今すぐやめるべき（追加）<br>・営利企業参入の問題点，保育の保障に責任をもっているといえるか（追加）<br>・株式会社立の認可保育所の人件費率が余りにも低い（追加）<br>・是正や勧告，指導を行っていく必要性（追加）<br>・全国チェーンの大手のように，保育事業でもうけようなどという営利企業は参入させるべきではない（追加）<br>・子どもの保育は商品ではないという立場を堅持する必要性（追加）<br>・財源保障を国に強く求めるべき（追加） | 2 | 0 | 3 | 5 |
| | 2 | 0 | 3 | 5 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒子ども・子育て支援新制度の問題点を明らかにし，改善の方向性も示した優れた質問 |

平成26年第2回定例会（第5日目） 2014.06.20

発言順：7　石川建治（社民党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：本市における奨学金制度の創設について<br>・奨学金受給者が急増している現実をどのように受け止めてるか<br>・相談や問い合わせにどのように対応してるか<br>・奨学金利用が急増した要因や背景についての認識<br>・返済金の充当順位を元本・利子・延滞金の順番に変更すること，所得連動型奨学金制度の導入，延滞金制度の廃止の必要性<br>・給付型奨学金制度を本格的なものするよう国に働きかけるべき<br>・高等学校等修学資金借入支援制度の評価と今後の事業のあり方<br>・本市として奨学金制度の創設の必要性<br>・奨学金制度の創設について検討したことがあるか，あるとすれば創設に至らない理由や課題，検討したことがなければその理由（追加）<br>・受給者の現状や実態を把握する必要性（追加）<br>・給付型奨学金制度の創設を求める（追加） | 3 | 2 | 3 | 8 |
| | 3 | 2 | 3 | 8 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒仙台市の現場調査，他都市の事例の調査を踏まえ，具体的な改善案を提示したきわめて優れた質問。質問によって何を明らかにするか獲得目標を定めることの重要性を示した質問 |

平成26年第2回定例会（第6日目） 2014.06.23

**発言順：1　早坂あつし（みんなの党・みんなの仙台）**

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：いじめ問題について<br>・２５年度にいじめ実態把握調査を実施したがどのような調査方法で，またどのような調査結果だったか<br>・山形県は統一アンケートを行ったが本市ではこのような取り組みをするつもりがあるか。今後のいじめ対策をどのように考えているか。<br>・仙台市いじめ問題専門委員会の設置状況<br>・本市のいじめの態様の現状<br>・本市の道徳教育の役割とコミュニケーション能力を育む方法 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| ２：スポーツコミッションと施設の利活用について<br>・これまで開催したスポーツイベントの経済効果についてどのように認識しているか<br>・スポーツコミッションとモータースポーツとのかかわり<br>・新たな施設設備が必要になる競技に対応するため既存施設を有効活用する手法が必要ではないか | 0 | 1 | 0 | 1 |
| ３：学校などの公共施設の利活用について<br>・廃校を京都国際マンガミュージアムのような斬新かつ新しい施設として利活用する必要があるのではないか<br>・多くの民間企業・学校法人・ＮＰＯ法人等に情報提供，指定管理者制度でのスポーツ施設等，新たな学校施設の利活用について | 0 | 1 | 1 | 2 |
| ４：再生可能エネルギーと屋根貸し事業について<br>・本市における再生可能エネルギー政策についての所見<br>・本市では屋根貸しによる太陽光発電事業についてどのように検討しているか | 0 | 1 | 1 | 2 |
| | 0 | 4 | 2 | 6 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒「２５年度にいじめ実態把握調査」「仙台市いじめ問題専門委員会の設置状況」「本市のいじめの態様の現状」は事前に調べておく必要がある。<br>２⇒「これまで開催したスポーツイベントの経済効果」は事前に調べておく必要がある。「スポーツコミッションとモータースポーツとのかかわり」「既存施設を有効活用する手法が必要ではないか」は質問が抽象的。具体的に何をどうするべきなのか質問者の考えを提示して質問する必要がある。 |

平成26年第2回定例会（第6日目） 2014.06.23

発言順：2　斎藤範夫（自由民主党・仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：ラグビーワールドカップ２０１９の公式試合招致実現に向け取り組みを強力に推進していくべきではないか | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ２：青葉区保健福祉センター保護課の公金横領・公文書不正作成等の不祥事と隠蔽について<br>・平成２２年１１月に露見した不祥事と平成２３年１２月上旬に露見した不祥事<br>・事実認定（当局はどのような調査を行ったのか）<br>・再調査（全体の事実関係を改めて調査する必要がある）<br>・不祥事露呈時の対応<br>・公金の取り扱いについて<br>・懲戒処分の基準<br>・市長はこの問題に対し自らが指揮をとり厳正な処分を行うとともに不祥事の再発を防ぐためさまざまな対策を講じ，市民の信頼回復に努めるべき<br>・事実関係に基づききちんと認定するべき（追加）<br>・答弁の矛盾とくい違い（追加）<br>・再調査するべき（追加）<br>・報告ラインの機能停止と処分の必要性<br>・関係部局への情報提供の必要性（追加）<br>・初期の段階できっちり事実認定して公務員として刑事告発するのが当然ではないか（追加） | 3 | 0 | 3 | 6 |
| | 3 | 0 | 4 | 7 |

| 【コメント】 |
|---|
| ２⇒不祥事を明らかにしそれの持つ問題点を整理し，改善の方向も指示した極めて優れた質問 |

平成26年第2回定例会（第6日目） 2014.06.23

発言順：3　木村勝好（市民フォーラム仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：本市への大学などの新たな設置とこれに関連して県の医学部構想について<br>・民間のシンクタンクへの調査委託，４月３０日付市長への会派の提言，この提言についての市長の所見<br>・県が進めようとする医学部構想について（市長は知事の判断・県の決定をどのように受け止めているか。本市に立地している東北薬科大が選択されるが望ましいのではないか） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ２：新たな総合区制度への対応と今後の分区のあり方<br>・他の政令市とも協力しながら政令市にとって使い勝手のよい制度となるよう国に求めていくべき<br>・指定都市都道府県調整会議についても使い勝手のよい制度となるよう国に求めていくべき<br>・青葉区が３０万人を超えた場合の分区のあり方<br>・答申がある以上は検討せざるをえないのではないか（追加） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ３：東西線の開業に伴うバス路線について<br>・第二次案はバス利用者やバス路線周辺住民の方々にできる限り応えられるものにするべき。今後の見通し。<br>・第二回説明会に提示される案は二次案か最終案か。<br>・市長の決意（追加） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ４：本市に置かれている東北各県のマスコミ各社の支社・支局への対応について（これまでの対応を転換してもっと積極的なアプローチを行い，本市の情報を発信していくべき） | 1 | 0 | 1 | 2 |
| | 3 | 0 | 3 | 6 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒「大学設置に応えられる政策展開」とは何か。民間のシンクタンクに調査委託した成果が不明。<br>３⇒「できる限り応えられるものにするべき」とはどういうことか。質問者の考えをもっとはっきりさせるべき。 |

平成26年第2回定例会（第6日目） 2014.06.23

発言順：4　渡辺博（自由民主党復興仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：仙台市市有財産の有効活用について<br>・地方財政法の改正による特例措置を利用し，不要不急の財産の処理（解体・有効利用）に取り組むべきではないか。<br>・この制度を有効活用するための全市調査の必要性 | 2 | 0 | 2 | 4 |
| ２：交流人口２３００万人について<br>・関西観光物産展の目的・成果をどのように考えているか。３市（仙台市・山形市・福島市）連携の試みを大事に育てていくべきではないか<br>・関西圏への販路拡大をこの展示会一本で今後もいくのか<br>・中部圏も含めて関西以西についての取り組みのあり方を根本的に考えていくべき<br>・２３００万人の真水の目標を明示し，目指した方がよいのではないか。 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ３：道路維持予算の確保について<br>・道路の機能についての当局の認識<br>・需要に対し十分な手当がなされていない。根本的な改修を第一に考え予算を確保して，計画的な取り組みを加速させる必要<br>・私道整備の遅れ | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ４：降雪時の除融雪について<br>・今回の豪雪が市民生活にもたらした影響<br>・今回の豪雪被害を経験して，体制の見直しは図られたのか<br>・今回の豪雪のような場合でも可能な限り市民生活に支障が起こらないような体制を構築する必要がある<br>・除雪・排雪の課題<br>・来たる冬までの体制と取り組み<br>・市を挙げた対応・柔軟な対応の必要性（追加） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ５：認知症対策について<br>・行方不明者に対する本市の対応<br>・行方不明になった場合の検索方法の工夫<br>・本市における認知症対策に対する認識<br>・市民に対する制度の周知・正しい知識の啓発活動<br>・早期発見と治療のための関係期間・関係者との連携と緊密化 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ６：宮城県広域防災拠点について<br>・本市として今年一月どのような回答を宮城県に送ったのか，要望がどの程度生かされているか。<br>・文書のやりとり以外に講ずべき方法があるのではないか。 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ７：防災について<br>・仙台市の全ての政策の基準に防災・減災思想を組み込んでいく必要があるのではないか。<br>・防災・減災を市是として条例化して拘束をかけることが有効ではないか | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ８：再選直後の市長訓示について<br>・「未来への投資」という言葉<br>・仙台の未来を開くために先頭に立たれる市長の考え | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 3 | 0 | 4 | 7 |

| 【コメント】 |
| --- |
| １⇒調査を踏まえた重要な質問<br>４⇒「除雪・排雪の課題」は何かをを自分で調べて，「可能な限り市民生活に支障が起こらないような体制」とは何かを質問者側で具体的に提示して質問する必要がある。課題も対策も全部当局に聞くという質問の意味を検討する必要がある。<br>５⇒「行方不明者に対する本市の対応」は事前に調べる必要がある。本市における認知症対策に対する当局の認識を問うのであれば質問者の認識を開示する必要がある。本市の認知症対策のどこが十分でどこが不十分かを調査することが先決。<br>６⇒本市の回答内容は事前に調べる必要がある。文書のやりとり以外に講ずべき方法として何があるか質問者側で提示する必要がある。<br>７⇒質問が抽象的。「仙台市の全ての政策の基準に防災・減災思想を組み込む」とはどういうことか。防災・減災を市是とする条例とそれによる拘束とは何か，それによって何がどう変わるのかを明らかにする必要がある。 |

平成26年第2回定例会（第6日目）2014.06.23

発言順：5　鈴木広康（公明党仙台市議団）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：仙台城について<br>・大広間跡遺構表示工事の進捗状況<br>・大広間跡遺構表示工事完成後のイベント<br>・大広間跡遺構表示工事後に二期工事として大広間の復元を考えてはどうか（アンケート，一口城主のような市民参加型の復元工事） | 0 | 1 | 1 | 2 |
| ２：新規開業率日本一を目指す本市は，子育てしやすいまち日本一を目指すことが必要ではないか | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ３：新規開業率日本一を目指すという目標について（新規開業率日本一を維持し，日本一起業しやすいまちという評価を確固たるものにするための取り組み） | 0 | 1 | 0 | 1 |
| ４：乳幼児施策について<br>・２０１３年の合計特殊出生率の割合<br>・本市におけるＳＩＤＳ（乳幼児突然死症候群）を予防する対応<br>・防止グッズの貸出し<br>・防止グッズの貸出しの実施に向けて前向きにやっていくことが必要（追加） | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ５：高齢者福祉について<br>・本市の入所待機者への対応<br>・アンケート調査の内容（追加）<br>・介護保険制度の仕組みを知らない方への本市の対応（追加）<br>・地域包括支援センター（それを知らない方への）本市の対応（追加）<br>・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業の現在までの取り組み状況（追加）<br>・本市における認知症高齢者の推計（追加）<br>・認知症医療支援診療所地域連携モデル事業の取り組み状況（追加）<br>・認知症の地域支援推進員の対応，仙台版の認知症アセスメントの活用状況（追加）<br>・地域ケア会議は効果的に行われているのか（追加）<br>・地域包括支援センターで地域包括ケアシステムを運用できるか。地域包括支援センターの人員強化，機能強化<br>・地域包括支援センターの増設，財政面の裏付け | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 0 | 2 | 2 | 4 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒「大広間跡遺構表示工事の進捗状況」は事前に調べておく必要がある<br>２⇒「子育てしやすいまち日本一」とは何か。何をどうすればそのようなまちになるかが問題。質問が上滑りしている<br>３⇒福岡市を視察したのであれば，新規開業率日本一を維持するために何が必要かを質問者側で提示する必要がある<br>４⇒「２０１３年の合計特殊出生率の割合」「本市におけるＳＩＤＳを予防する対応」は事前に調べておく必要がある<br>５⇒事前調査・現場調査が欠けている。追加質問のような事前調査・現場調査をまず行う必要がある。本市の高齢者福祉の何が今決定的に欠けているのかを調査によって掴んでそれをつきつけて質問する必要がある。知らないことを聞くというスタイルの質問は極力避けるべき。これでは本会議で事前調査・現場調査をやっているようなものである。 |

平成26年第2回定例会（第6日目） 2014.06.23

発言順：6　小野寺淳一（みんなの党・みんなの仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：防災について<br>・注意報と警報の区分を明確にするべき<br>・津波注意報についての沿岸部と内陸部の受け止め方についてどう考えているのか，どのように周知していくのか<br>・避難道路について（早期に避難道路の整備を行うべき。今後のスケジュール）<br>・津波避難施設について（津波避難施設が完成するまでの間ソフト対策で補うことが必要） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ２：仙台市東部地域災害危険区域内移転者支援に関する補助金交付事業について<br>・明確な書類提出方法を策定し，事前に支払えるよう緩和すべき<br>・書類作成と説明方法の改善 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ３：旧町内会のコミュニティー維持について（仮設の空きスペースを利用して旧町内会の方々が集う場所を設置してはどうか） | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ４：地場産野菜の消費拡大に向けた取り組みについて（東部の狭いエリアでの三店舗強の野菜直売所ができることによる共倒れのおそれとバックアップの必要性） | 0 | 1 | 1 | 2 |
| ５：地元伝統工芸の振興について（地元伝統工芸の振興について今までどのように取り組み今後どのように取り組んでいくのか） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 0 | 1 | 3 | 4 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒「避難道路の今後のスケジュール」は事前に調べる必要がある<br>「津波避難施設が完成するまでの間のソフト対策」とは何かを具体的に提示する必要がある<br>５⇒今までどのように取り組んできたかは事前に調べる必要がある。その上で他都市のそれと比較して本市として何ができるのか何をなすべきかをピックアップして質問する必要がある。自説を展開し，当局の取り組みを聞く質問の実効性を検証する必要がある |

平成26年第2回定例会（第6日目） 2014.06.23

発言順：7　鈴木繁雄（自由民主党・仙台）

| 質問 | ①事前・現場調査（0～4点） | ②他都市との比較（0～2点） | ③改善案（0～3点） | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| １：復興公営住宅の建設について<br>・復興公営住宅の建設のための安易な不動産取得の問題点<br>・被災者の動向の追跡調査の必要性<br>・今後１２２２９戸になろうとする市営住宅の管理運営<br>・空き家を放置しておくことのないよう市営住宅の管理運営の見直しの必要性 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| ２：幼保一体化について<br>・幼保一体化について市長部局内で本質的な議論はどのように行われ，本市としての幼児教育，児童保育の理念がどのように形成されたのか。子供未来局内部においていかなる検討がなされてきたのか<br>・女性の社会進出と出産・保育・育児，そして教育について母として，キャリア女性としての市長の見解 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1 | 0 | 1 | 2 |

| 【コメント】 |
|---|
| １⇒いずれも重要なテーマ。市営住宅の管理の方法だけでも継続的に調査する必要がある<br>２⇒自説の展開なのか質問なのか不明 |